

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972600050		
法人名	社会福祉法人光誠会		
事業所名	ケアハウス フローラ		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町上柏崎551-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop20">www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop20</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和3年12月9日(木)		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念を念頭に、グループホーム独自の運営方針があり、「ゆつくり楽しく、一緒にぬくもりのある生活を送ります。」を意識して、入居者を中心に職員が穏やかに接し、入居者は安心して楽しく生活ができるように支援をしています。コロナ禍ということもあり、制限のある中で生活しておりますが、メリハリのある生活ができるように身体機能低下防止運動や脳トレ、菜園クラブの参加、けやき館での運動教室の参加などをしております。また、畑で採れた野菜を使った料理やお菓子作りを行い、入居者と職員が笑顔で関わる事ができております。外出について現在難しいですが、外出が可能となった時は可能な範囲で外出をしたりしていこうと考えています。その他、地域の関わりを持つ機会ができるようクリーン活動の参加などしております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は敷地内にケアハウスやデイサービス、在宅介護支援センター、コミュニティケア施設等の施設が併設されている。  
 ・運営推進会議が土曜日に開催され、入居者家族や地域包括支援センター職員、行政、地域住民、駐在所、事業所職員等、多彩な顔触れが参加している。出席人数が多く町の情報や法人の情報など皆で共有できる機会となり連携が図られている。  
 ・法人が運営するコミュニティケアけやき館では、オレンジカフェの開催や町の総合事業・一般介護予防事業に活用されており、地域に開かれた場所となっている。  
 ・運営に関する職員の意見の反映に関して、年2回法人の施設長面談があり、職員の希望や意見を聞く機会が設けられている。職員が意見を言いやすい雰囲気であり、グループホームの職員の離職防止につながっている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念掲示。申し送り時に唱和を行い、職員の意識を高めている。グループホーム基本方針①②③を踏まえ、入居者へ安心できるような支援を実践している。	毎朝、併設されている事業所と合同で行う朝礼や全体会議で理念を唱和している。理念に沿ったグループホームの基本方針を事務所に掲示し職員に意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体のクリーン活動、ペットボトルキャップの回収、菜園クラブ等でボランティアの方と交流し、良好な関係が築けている。また、コロナの影響により小中学生等の交流が出来ない事がありました。例年、運動会へ訪問したりしております。	コミュニティケア施設やき館では様々な事業が行われており、地域住民が利用したり、入居者が利用している。年2回、町のクリーン活動では、入居者と職員と一緒に参加し、事業所周辺のゴミ拾いを地域の方で行っている。法人の畑をボランティアの方と一緒に作業する等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターと協力しながら、オレンジカフェ(認知症カフェ)に参加し、認知症の理解や支援方法など地域の方に向けて情報や助言等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、けやき館を利用し運営推進会議を行い、グループホームでの活動や入居状態入居者の体調面等を報告・説明し、出席者より要望を聞き、今後の対応に活かし質の向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を土曜日に開催している。参加者は入居者家族や地域包括支援センター職員、行政、地域住民、駐在所、事業所職員等である。会議ではお互いの情報を伝えあえる機会となっている。会議に合わせ、町の教育長に講演を依頼する等、マンネリ化しない工夫が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて事業所からの情報や町からの情報を受け取りなど行い、町と事業所が密に連携が取れるように取り組んでいる。 現在、伴走型相談支援について体制整備等の検討を町と行っています。	町の担当とは定期的に電話やメールで連絡を取っている。けやき館をオレンジカフェの実施場所として提供し、職員が運営を手伝っている。現在、「認知症伴走型支援事業」の設置について町と検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、内部研修で身体拘束適正化を図るため、3ヶ月に1回の委員会活動を行い、また、身体拘束チェック表を活用し全職員の意識を高めている。玄関の施錠をしない為、入居者が自由に外へ出掛けられている。	身体拘束適正化のため3ヶ月に1回、委員会活動が行われている。また、入居者への言葉遣いや高齢者の特徴を踏まえた介護の仕方等が記載された身体拘束チェック表があり、全職員が毎月記入し意識を高めている。研修に参加した職員はグループホームの会議で発表し皆で内容を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度より虐待防止委員会を立ち上げ、全体内部研修を行い、虐待に関する勉強会や虐待防止自己点検シート実施し、全職員の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の場で、日常生活自立支援事業、成年後見人制度についての勉強会を今後計画し、それぞれの知識が高められるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、利用契約書を基に内容を確認しながら本人・家族にわかりやすい説明を心掛け、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面談を年1回行い、意見や要望の聞き取りを実施。面談時にその都度お話を伺っている。また、運営推進会議時外部の委員を含め、話し合い、意見を聞き運営に反映している。	家族からは面会や運営推進会議等で意見や要望を聞いている。入居者からは普段の何気ない会話から希望を聞いて対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者を交え、事業計画を基に職員からの意見や提案事項を伝える場としてグループホーム会議を行い、円滑に運営できるように努めている。	年2回、法人の施設長との面談があり職員の希望や意見を聞く機会がある。管理者は普段から職員が意見を言い出しやすい雰囲気を作っている。職員の離職防止につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上半期、下半期の年2回、施設長面談を行い、職員一人ひとりが有意義に仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、中堅職員及びリーダークラスの職員を対象に各月3回程度、リモートによる法人内研修会を実施。新人対象の研修もあるが、グループホームでは該当者がいない為、未実施となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム会議や自施設全体の内部研修、全体会議などで他部署と交えながら勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、何気ない世間話をし、本人の表情を伺い不安な事や困っている事等を十分に傾聴し、共有共感し受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前からの相談があった時、家族が困っている事、不安な事や要望を十分に傾聴している。 入居間もないと不穏になる方もいるので、その都度、家族と連携を密に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始する前に、事前の担当ケアマネジャーより利用者の情報を得たり、その都度、連絡を取っている。又、包括支援センターや居宅のケアマネジャーと連携し必要としている援助を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に生活しているという姿勢をもち、笑顔を忘れず寄り添いながら日常生活における作業と一緒に楽しく行いながら安心できるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のADL、IADLの変化を迅速に察知し、「電話連絡等により、家族の方に状態や様子等お伝えし、家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により外部の方との接触が少ない中でも感染対策を行いながら、けやき館での行事に参加し、地域の方と交流が途切れないような支援を行っている。	コロナ禍のため外出や面会が制限されているが、面会を玄関先で短時間で実施したり電話をかける等、関係が途切れないように工夫している。毎月、家族には請求書と一緒に本人の様子を記載した手紙や写真を同封している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の関係性、個々の状態を把握し仲の良い方が近くに座れるようにしたり、職員が間に入るなどをして、コミュニケーションが取れるように環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居後も連絡を取ったり、面会時に行ったりし、相談や支援を行っている。また、施設のお祭りの案内を出している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの意向を尊重し、困難な場合は職員が介入し寄り添いながら援助を行っている。	入居者との日常会話から入居者一人ひとりの思いや意向を把握している。困難な場合は家族から情報を聞いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーや包括支援センターの担当者と連携を図り実態把握をしている。また、家族からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調面や心理面などのケアを行い、入居者の有する力が衰えないようにできる事や出来なくなってしまうこと等を把握し、入居者一人ひとりが安心して日々の生活が継続出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で1~2名のケース担当者会議を行い、入居者の現状を基に全職員からアンケートを取り、ケース記録と運動しながら話し合い、結果をまとめケアプランを作成している。	介護計画は職員全員の意見を基に介護支援専門員が立て、本人・家族に確認して作成している。業務日報に介護計画とモニタリングが組み込まれており、職員は計画に沿った支援ができていのかどうか確認することができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を細かく具体的に記載し、早番・日勤・遅番・夜勤者にを送りを行っている。また、状態の変化や気づいた事は迅速に管理者、ケアマネジャーに報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベントやクラブ活動に要望に合わせて参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により活動の制限がある中でも、けやき館での行事に参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関受診時、入居者の日常の様子や出来事を書いた通院シートを家族に渡し説明を行っている。医師からの返信、又は家族からの聞き取り説明を受け連携を図っている。また、直接医療機関に状況を説明する場合もある。	入居前のかかりつけ医を入居者全員が継続している。受診時には家族に日常の様子等を記載した通院シートを渡し円滑に受診ができるようにしている。訪問歯科を必要に応じて依頼し、義歯の調整等で利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中、気づきや変化を記録し、看護師と連携を図りながら、医療機関受診時に健康管理のアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、早めに面会をし、担当の看護師やPT・OTにお会いし、現在の状況を聞き取りし退院にむけてのカンファレンス参加し、施設の条件等を伝えスムーズな退院が出来るように行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、当施設では看取りは行っていない事を説明。理解を得るようになっている。今後、看取り対応が行えるように勉強会や看取り対応ができる医師を探している。	入居契約時、看取りは行っていないことを家族に説明している。家族には重度化しそうなタイミングで法人の施設を案内している。今後も看取りの勉強会の継続や対応ができる医師を探していこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年3回リスクマネジメント研修を実施。急変時や事故発生時対応マニュアルを作成し、月1回の会議時、看護師の指導のもとシミュレーションを行っている。また、その都度、マニュアルを回覧し周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、年2回の消防訓練を行っているが、本年はコロナの影響で1回の実施となっている。災害時の対応マニュアルも作成。自施設では、防災倉庫があり必要な備品がある。地域と連携協力体制の構築に向けた検討をしている。	消防訓練は併設の施設と合同で行われ、今年はコロナ禍のため年1回実施した。敷地内に防災倉庫があり炊き出し用具やテント等、必要な備品を備えている。DWATIに職員2人が登録している。法人で事業継続計画(BCP)を策定中である。	火災の避難訓練は実施されていますが、夜間時を想定した訓練ではありません。様々な場合を想定した訓練を実施されることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、不快に思わないように安心できるよう丁寧な声掛けを行っている。	言葉かけをする時は「〇〇さん」を基本としているが、本人の希望に合わせて呼び方を対応している。トイレ誘導時は他入居者に聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナの影響により活動の制限はあるが、入居者からの要望など聞き取りし、グループホームでのイベントや出前等の企画を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人を中心に、本人と話し合い要望に沿って、その日が有意義過ごせるように支援をしている。職員側からの押し付けはせず、一人ひとりのペースに合った声掛けで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に応じた服装選びを本人と職員と一緒にやっている。また、身だしなみやおしゃれができるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	使い慣れた食器を使用している。 職員と一緒に食事作りをし、野菜を切ったり味付けをしている。 食後、食器の片付けを行っている。	食事は併設施設の栄養士が献立を立て調理されている。献立とは別に事業所の畑で採れた野菜等を、入居者と職員と一緒に野菜を切ったり味付けをして楽しむこともある。併設施設と合同で誕生日を祝ったり、リクエスト食やイベント食が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の表を活用し日々の摂取状況の把握に努めている。 摂取量が少ない方には、声掛けを行い、食事形態を見直したり、ジュースやゼリー等で摂取が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導し口腔ケアを行っている。義歯洗浄剤を使って義歯洗浄している。日頃の食事の様子等で変化が見られた時は、歯科医に訪問して頂き、状態を見て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に、各自の時間でトイレの声掛けや誘導を行っている。また、必要に応じて排泄時の見守りや声掛けといった自立に向けた介助を行っている。	排泄チェック表を基に入居者一人ひとりに合わせて声かけや誘導を行っている。夜間時も入居者一人ひとりの排泄パターンを把握して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや運動(ラジオ体操・集団体操)、散歩、腹部マッサージ等、個々に応じた予防を行っている。また、主治医と相談し、必要に応じて下剤の処方をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回入浴支援をしている。心身共にリフレッシュできるように、その方に合わせた支援、介助を行っている。	週3回、午前中に入浴が行われている。自分の好みのトリートメント剤を使用する等、入浴を楽しめるように支援している。冬季はヒートショックに気を付けて寒暖差がないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや散歩や居間でくつろいだりし、その日一日を有意義に過ごして頂いている。夜間良く寝られるように、居室内の空調や寝具を整え安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋や通院時の状況を記録。その都度、職員間で情報を共有している。誤薬防止にダブルチェックを行っている。内服時、誤嚥に気を付け見守り介助し、症状の変化も確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ・干すといった役割をもって生活している。散歩や体操、合唱等希望に合わせて楽しみのある生活と気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出は出来ていないが、施設周辺の散歩やけやき館での行事に参加し気分転換を図っている。	コロナ禍で外出が制限されているため事業所周辺の散歩で気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から本人のお小遣いは預かっている。コロナの影響により入居者本人と外出することが出来ていない状態で買い物は職員が代行をしている。今後、外出する機会があれば、本人が使えるように支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に宛てた手紙を書いたり、なかなか会えない家族に個人個人の写真を送り様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで快適に過ごせるように、必要に応じてカーテン等で外光を調整したり、エアコンで室温調節をしている。テレビの音量等に気を付けながら居心地よく過ごせるように工夫をしている。また、季節感が持てるように花を飾ったり、季節にあった飾りをしている。	リビングは大きな窓から光が入り室内は明るい空間である。テーブルの下にオイルヒーターを設置し足元を温め快適に過ごせるようにしている。畳のスペースには炬燵が設置され寛げる雰囲気である。2階へ上がる階段には昇降機が設置され安全に移動できるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースなどで自由に過ごせるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後、本人や家族と話し合い、使い慣れた家具や寝具を持って来て頂き使用している。居室内では、自分が作成した作品を飾ったり、誕生色紙を飾っている。	居室のエアコンやベッドは備え付けてあるが、寝具やタンス等、使い慣れたものを持ち込むことができる。本人の希望に合わせて家具の配置を行い、居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事・わかる事が継続できるようトイレの場所や自室がわかるように札を掲示したり、自立した生活が出来るように工夫をしている。		